

クロスキャットは、公共ビジネス事業部公共第一部が、システム開発の業務品質を評価する国際的な基準、CMMIの最高位「レベル5」を達成したと発表しました。

CMMIは、米カーネギーメロン大学のソフトウェアエンジニアリング研究所が開発。システム開発のプロセス改善を行うためのガイドラインとなるもので、

組織の製品、サービスの開発能力などを成熟度のレベルとして評価する。2012年からCMMIモデルを用いた開発プロセス改善に取り組み、14年3月には

クロスキャットは、かねてISO9001を用いた全事業部門でレベル3を達成していた。その後、公共

CMMIレベル5達成

クロスキャット

公共ビジネス事業部門で

QMS（品質管理システム）を構築し、品質管理をビジネス事業部公共第一部で行ってきた。さらに全社的に、レベル5達成を目指

し、改善項目の洗い出しと改善計画の策定に取り組んできた。

CMMIレベル5は、「最適化しているレベル」と定義され、組織的・継続的にソフトウェア開発プロセスの分析・評価・改善をしながら成果物とプロセスの高い品質を維持できることを意味する。レベル5を達成したのは、クロスキャットで国内8社目。